

No. 808

企業

zoom up

日新化成

“人の役に立つ” 化成品包装資材メーカー

「包装資材は姿・形が変化していくかもしれませんが、存在自体は無くならないでしょう」—こう語るのは、約50年にわたって包装資材製造を主体に卸も手がける、日新化成（株）代表取締役の結城琢磨氏だ。

当社は、メインの中・低圧ポリエチレン（PE）のほか、ポリプロピレン（PP）、ラミネート製品、不織布などの資材を扱っている。これらの樹脂原料は国内外の原料会社から最短ルートで仕入れることでコストを抑え、協力会社にてインフレーション（生地を製造）した後に自社で製袋し、保管・納品までを一貫して行う。この強みを生かして、大手・上場企業を取引先に数多く有している。

身近なところでは、ワイシャツ・コートなどのクリーニング包装材（80種類以上）がある。これを主力に、ポリエチレン製品では家電・OA製品のホコリ除けカバーやシュレッダーのごみ袋まで幅広い分野に利用されている。

結城社長は現在30歳。祖父の会社を受け継ぎ現職へ就任し、今月で代表5期目を迎えた。就任当初売上げが低迷するなか、既存の顧客に対しPEに限らず他の資材も提案受注することで打開。最初の2年で売上げは1.5倍まで伸長し、足元も堅調に推移している。

一方で、当資材は原材料の比重が大きいなか、近年は業界全体で原価が上昇するも単価に転嫁できない状態にある。「原料である石油は海外からの輸入に頼らざるを得ないこともあり、為替の影響は避けられません。また、海外から入ってくる類似製品も脅威です。大手には中国・ベトナムなど東南アジアの子会社で製造し、コスト削減を図っている企業もあります」（結城氏）

ただし、近時の顧客の要望は“低価格だけでな

「お客様の役に立つこと、それが我々の社会貢献です」と語る結城社長



く高品質”へシフトしているという。これに対し当社は、長年蓄積されたノウハウや外注業者との協力関係を生かして、原料の配合や温度を研究し製品を開発。徹底した製品管理のもと、良質な商品の供給体制を維持している。

売上げばかり追っていた当社だが、近年は社員教育において“人の役立つことをする”と掲げている。既存の商品でも何か新しい切り口で提案したり、他社がマネできない付加価値を付けたりといった具合だ。加えてニーズを取り入れるため、顧客との話し合いの場を積極的に設け、実際に“大型で薄いけれど強度が強い包装材”を開発、採用に至った事例もある。

今後について結城社長は、「PPの新規製品が着々と増えてきており、売上げ拡大の土台はできている」と自信を見せる。さらに価格競争ではなく値段に勝るものへの追求のため、設備増強を講じていく。事故時の対応力などのサービス向上や提案力をより一層強化し、人柄に表れた堅実（無借金）経営で“人の役に立ち続ける”だろう。

（取材・文／東京支社情報部 伊佐 美波）

会社概要

日新化成（株）

TDB企業コード：985615399

東京都北区王子1-22-15、電話03-3914-0411

代表 結城琢磨氏

設立：1968年4月

資本金：3000万円

事業内容：化成品包装資材製造、卸

年収入高：約3億2500万円（2016年3月期）

従業員：5名

<http://www.nisshinkasei.com/index.html>